

ホルムズ海峡の封鎖：経済的核オプション

フランク・ハーバートの『デューン 砂の子供たち』（2003年ミニシリーズ）では、アラキスを奪取または防衛するための渦巻く陰謀の中で、鋭い真実が浮かび上がる：「スパイスを支配するのは誰かではなく、スパイスを乱す能力を持つ者だ。」

この一節は帝国の仮面を貫く。ハーバートの宇宙では、スパイス・メランジは究極の資源——寿命を延ばし、予知を与え、フォールドスペース航法を動力とする。しかし真の力は収穫や備蓄にあるのではなく、それを断つ信頼できる脅威にある。流れを止められる者が銀河の喉を握る。

2026年3月6日との類似は明らかだ。現代文明はスパイスではなくエネルギーで動く。アラキスの脆弱な生命線に最も近い現実世界のアナロジーは**ホルムズ海峡**——最も狭いところでわずか50キロメートルの細い海上回廊だ。ここを通るのは世界の海上輸送石油の約**5分の1**、液化天然ガス（LNG）輸出の約**4分の1**である。通常時はこの流れが絶え間なく続き、目に見えないインフラとなる。しかしその見かけの安定は異常な脆弱性を隠している。世界経済は、容易に脅かされる単一のチョークポイントを通る途切れのない通行に依存している。

進行中の危機はこの脆弱性を露呈した。2月28日から始まった米・イスラエルによるイラン攻撃（オペレーション・エピック・フューリー）の後、イランの報復行動——船舶・施設への攻撃、IRGCによる封鎖宣言、海峡通過を試みるあらゆる船舶への明示的な脅威——により、タンカー交通はほぼゼロに減少した。数百隻（推定150~200隻以上のタンカーその他船舶）が湾内に錨泊または立ち往生し、動けない。生産停止はカタールエネルギーのラス・ラファンでのフォース・マジュールから損傷タンカー、停止した流れまで外側に波及している。

しかし海峡を閉鎖する決定的メカニズムは純粹に軍事的なものではない。ミサイルとドローンが舞台を整えたが、見えない引き金は**金融**だった：海上保険の崩壊。

見えない引き金：保険の崩壊

世界の海運は隠れた補償層に依存している——船体保険、保護・賠償（P&I）、特にロンドン市場（ロイズ・オブ・ロンドンや国際P&Iクラブグループ：Gard、Skuld、NorthStandard、London P&I Club、American Clubなど）が主に引き受ける戦争リスク保険。これらがなければ、用船契約は航行を禁止し、貸し手は融資を保留し、港は入港を拒否する。

危機の初日、保険会社はリスクを計算不能と判断した。主要プレイヤーはイラン海域、ペルシャ湾、隣接地域、ホルムズ海峡そのものでの戦争リスク延長のキャンセル通知を発行——3月1~2日から72時間通知後、2026年3月5日有効。共同戦争委員会は高リスクゾーンを湾全域に拡大。残存カバレッジのプレミアムは急騰（報告では船体価値の0.25%から1%へ、場合によって

は12倍増。1億ドルのタンカーで航海ごとの戦争リスクプレミアムが約20万ドルから約100万ドルへ跳ね上がる)、ほとんどのオペレーターにとって通過が経済的に不可能となった。

結果：技術的には開いているが経済的には使用不可能な海上動脈。信頼できる保険がないためタンカーは航行しない。少数の大胆な船舶が暗闇で航行（AISオフ）するかもしれないが、商業交通は75～80%以上崩壊。3月6日時点で過去24時間に石油出荷はなく、散発的な貨物通過のみ。海峡は事実上の閉鎖——機雷や封鎖船ではなく、ロンドンの引受会社が電話を切ったためだ。

1973年をはるかに超える衝撃

1973～1974年のオイルショックが基準：OPEC削減と禁輸で世界石油供給が7～12%減少（平均約9%不足）、価格が約3ドル/バレルから11～12ドルへ4倍になり、10年続くスタグフレーションを引き起こした。

2026年のホルムズ混乱は構造的にはるかに大きい： - 有効石油供給損失18～21%（サウジアラビア/UAEのパイプライン迂回は生産停止と通過麻痺で限定的な救済）。 - 世界LNG輸出の20～25%混乱（カタール・UAEの量がオフライン、LNG市場は石油よりはるかに柔軟性が低い）。 - 石油化学原料不足と立ち往生船舶による艦隊容量除去。

今日のジャストインタイム・コンテナ化サプライチェーンは1970年代より衝撃を速く広く広げる。

パニックの数学

短期エネルギー需要は極めて非弾力的（弾力性推定 $-0.05 \sim -0.3$ ）。消費者は一夜で車を交換できず、産業は即座に燃料を代替できず、パニックが買い占め/投機を増幅する。

1973年、10%未満の打撃で300～400%急騰。2倍以上の混乱——LNG不足と海運麻痺が加われば——不定シナリオで非線形エスカレーションを引き起こす可能性。現在のブレントは84～85ドル付近（月次で15～23%上昇、ボラティリティ中）、市場は一時的期間を価格付け。主要予測は長期ケースで90～120ドル（または140ドルのテールリスク）と上限、相殺と需要破壊を仮定。しかし無期限閉鎖の認識にシフトすれば、心理的転換が非モデル化の極端を解き放つ——完全パニックで800～1000%急騰、600～750ドル/バレル以上も。

戦略備蓄：有限の緩衝

IEA加盟国は純輸入カバー90日以上（プラス超過）。協調放出で初期不足を鈍化可能。しかし備蓄はカウントダウンで救済ではない。長期ケースで積極的引き出しは夏末/秋に枯渇リスク、配給または枯渇を強制——市場が緩衝消失に直面し新たな価格波を引き起こす。

連鎖する経済効果

混乱はエネルギー市場を超えて転移し、世界経済の全層を波及する連鎖反応を解き放つ。局所的チョークポイント危機から始まり、構造的損傷へ転移、エネルギーコスト上昇が相互連結システムの乗数として機能。時間とともに効果が複合：初期価格ショックが行動変化、供給制約、生産低下、活動・雇用の深い収縮へ。無期限または長期シナリオではこれらの連鎖が加速、一時的ボラティリティを体系的脆弱性へ変える。

海運と世界貿易の麻痺

即時的で最も目に見える波及は海上輸送。バンカー燃料価格が原油と連動上昇、戦争リスク保険プレミアムはすでに爆発——数日で船体価値の約0.25%から1%（以上）へ、船舶サイズ次第で航海ごとに数十万～数百万ドル追加。主要P&Iクラブ（Gard、Skuld、NorthStandard、London P&I Club、American Club）は3月1～2日の通知後、3月5日有効でキャンセルを発行、大半で通過が経済的に不可能。

立ち往生タンカー（湾内で錨泊・遊休150～200隻以上報告）が有効艦隊容量を縮小、無保険または高プレミアムをリスクする者は喜望峰迂回を強制。これらの迂回は数千マイル、数週間の通過時間、代替港の巨大混雑を追加。運賃倍増——スーパータンカー・コンテナ追加料金は未曾有水準、影響ルートでTEUあたり数千ドルの緊急料金。

影響は世界貿易全体に：消費財、産業部品、電子機器、原料がより高価・遅延。ジャストインタイム製造が遅延、在庫緩衝枯渇、エネルギーから遠いセクターでサプライチェーンボトルネック発生。アジア港（ジェベル・アリなど湾ハブ依存）はバックログ、インド輸出（バスマティ米港湾停滞）などで数百万トン凍結。純効果は取引財の広範インフレ、企業マージンと家計予算の両方を圧迫。

包囲された食糧システム

エネルギーコストは農業の全段階に浸透、石油/LNGショックを深刻な食糧危機へ変える。ディーゼルがトラクター・収穫機・灌漑ポンプを駆動、天然ガスが窒素肥料（尿素、アンモニア）の主原料、海上輸送が穀物・油・加工食品を世界移動。

肥料市場は迅速反応：世界尿素貿易の約3分の1（主要窒素源）が海峡通過または湾生産者由来。価格すでに急騰——ニューオーリンズ尿素が危機前約475ドル/トンから数日で520～550ドル/トン（50～80ドル/トン上昇、11～17%）、1週間で60～80ドル/トン上昇報告、長期なら数百ドルも。リン酸塩など他の栄養素も同様軌道。北半球春植えの農家はコスト管理で施用率削減、次回収穫で収量低下。

輸送インフレが痛みを増幅：高い運賃・燃料コストで輸入小麦・飼料・主食の着地価格上昇、パン・鶏肉・豚肉・乳製品・海産物など必需品押し上げ。輸入依存地域（アフリカ一部、南アジア）で食糧インフレが人道的閾値へ加速、先進国は痛い管理可能な上昇。世界食糧生産——ほぼ半分が合成窒素依存——下押し圧力、脆弱地域で不足と政治的不安定リスク。

産業・建設の崩壊

エネルギー集約産業が次の打撃吸収。鉄鋼生産、化学製造、セメント窯、重機械はすべて安価信頼炭化水素と電力（しばしばガス均衡）に依存。投入コスト持続不可能：エネルギー請求書倍増・3倍で鉄鋼価格急騰、マージン消失、化学プラント（石油化学依存）生産削減または閉鎖。

世界最大雇用主の一つである建設——材料コスト（鉄鋼、セメント、アスファルト）急騰と融資障害（インフレ懸念中の高金利）で凍結。開発者プロジェクト停止、インフラ計画停滞、すでに逼迫市場で住宅不足悪化。セクター収縮が失業と関連財（家電、家具）需要減へフィードバック、低下深化。

金融市場と信用逼迫

金融システムは成長期待崩壊に激しく反応。航空、物流、小売、製造、消費裁量セクターの収益予測急落で株式指数暴落。安全資産流れで債券利回り乱高下、銀行がデフォルト上昇と担保価値下落に対し引当増で信用市場逼迫。事業が運転資本・ヘッジに最も必要時に流動性蒸発。

企業債務負担は高金利（中央銀行がインフレ再燃と格闘）と減収で膨張。炭素集約セクターの立ち往生資産が損失増幅、エネルギー連動デリバティブなど相互露出の体系リスクが伝染懸念高める。

雇用ショックと悪循環

人的コストは失業の波で現れる。エネルギー集約セクターが最初に職を削減——航空会社フライト停止、トラック会社車両遊休、化学プラント解雇。波及：家計が食料・暖房・交通など必需品に多く割り当てで消費支出減、小売・ホスピタリティ・サービスに打撃。建設解雇が痛み増幅。

失われた収入＋基本コスト急騰が貧困の罌創造：家計が裁量支出さらに削減、事業失敗と需要破壊加速。セクター収縮から始まるものが広範リセッション——または無期限シナリオで大恐慌——へ進化、信頼再構築、失敗企業再開、サプライチェーン回復に年単位必要。

これらの連鎖は相互依存の脆弱性を示す：エネルギー→輸送→貿易→産業・食糧システム→雇用→消費。エネルギー基盤切断で構造が層ごとに崩壊。長期混乱で世界経済は単に減速せず——解体し、回復地平が数年でなく数十年へ。保険誘発ホルムズ閉鎖はすでに、金融メカニズムが軍事力単独では維持困難なものを達成する方法を示した：流れ停止と体系崩壊解き放ち。

意外な地球の管理者：イランが惑星のために流れを乱す

深い皮肉な逆転で、イランの行動——意図的か emergentか——は気候変動闘争で意図せぬ英雄として国を位置づける可能性。ホルムズ海峡の実効閉鎖は世界石油供給の18～21%削減、LNG輸出の20～25%で、京都・パリ協定が達成し得なかった規模の急速・非自発的需要破壊を世界に強いる。

京都（1997）とパリ（2015）は野心的だが自発的目標、漸進移行・技術拡散・国家誓約依存——しかし化石燃料使用は新興経済で拡大し、数十年間排出上昇継続。しかし持続的ホルムズ

混乱は温室効果ガス排出をはるかに攻撃的に削減可能：石油・ガス燃焼減でCO₂排出減、迂回・量減による海運、ダウンストリーム産業減。価格が長期パニックで**800~1000%**急騰（原油**600~750ドル/バレル**以上）なら、配給・削減・行動変化・経済収縮でエネルギー消費崩壊——パリ下の再生可能エネルギー採用や効率向上の漸進削減をはるかに超え、年間数千万~数億トン排出削減も。

これはイスラム原則の環境管理と驚くほど一致。コーランは人類を地上の**カリフ**（代理人・管理者）とし（例：2:30、6:165）、創造を浪費的に搾取せず保護・均衡する**アマーナ**（信託/責任）を委ねる。土地腐敗（ファサード・フィ・アル＝アルド、7:56、30:41）回避と消費節制の概念は将来世代のための資源保存を強調。このレンズを通せばイランの混乱は惑星管理の極端施行と見なせ：気候混乱駆動の化石燃料無制限流れを停止し、人類に抑制、抽出削減、カーボン依存からの加速移行を強いる。

戦略的教訓

サウジアラビアが最多石油生産、米国が最大軍事力、エネルギー大手が生産支配かもしれない。しかしこの危機が露呈した決定的レバーは誰も持っていない。

そのレバーは**混乱**だ。イランは直接脅威と保険市場の合理的反応で流れ停止能力を示した。デューンの宇宙がメランジに中毒のように、安価途切れぬエネルギーに中毒した世界経済は今、自らの脆弱性に直面。

ハーバートの言葉、アラキスの砂丘で語られた：**支配とは資源の所有ではない。支配とは流れを止める能力だ。**

ホルムズ海峡は単なる航路ではない。私たちのエネルギー依存世界の中央動脈だ。それを切断——金融メカニズム経由でも——はグローバル化の真の脆さを露呈。2026年3月の教訓は世紀と銀河に響く：真の力はスパイスを支配する者ではなく、乱す者に宿る。